第１回原村障がい者福祉計画策定委員会

議事録

日時：令和5年12月15日（金）

午後　5時から

場所：原村地域福祉センター　多目的ホール

**１　開会**

・伊藤課長より開会あいさつ

**２　会長あいさつ（阿部会長）**

・お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

・吹田市では痛ましい事故が発生したが、ノーマライゼーションの考え方については、未だ健常者には理解しにくい状況である。

・発達障がいの子供達は増加傾向にあるため、放課後デイサービスも多様な事業所で実施しており、専門の高等学校が今年度開校したところである。しかし、受け入れ態勢はできたが、本質のところが分かりあっていない状況にある。

・多様な立場からご意見いただき、確かなものにしていきたい。本日は、よろしくお願いしたい。

**３　自己紹介**

**○各委員より自己紹介**

**４　議事**

**（1）アンケート調査報告**

（地域総合計画より資料説明）

**○小出委員**

・外出時の移動、緊急時の移動の困難、相談窓口が十分ではないとの意見が多い。現状では、どのようなサービスが受けられているのか、教えていただきたい。

・相談窓口については設置してあるが、なぜ利用されないのか、ギャップをどう考えているか、教えていただきたい。

**○事務局**

・相談窓口については、どこに相談したらよいのか分からないとの意見が多く、周知不足を痛感している。

・緊急時の移動の手段について、今のところ、お示しできるものがない状況にある。一方、普段の移動については社会福祉協会の移送サービスがある。ただし、手帳取得者や介護認定者に限られている。

**○義経委員**

・移送サービスについて、茅野市においては公共交通のバスが廃止され、問題となっている。こちらでも、車いす利用者の方の移動については後回しになっている状況であり、多様な方の希望をお聞きし、会議で議論して福祉計画に反映してもらう形で改善策を検討しているところである。

・アンケート調査結果を見ても分かる通り、最後の頁に記載のあるご意見が重要ではないかと考えている。福祉サービスを利用できている方は満足できている一方、サービスを受けられていない方に不満があるのではないか。

・障がいを持っていても、ある程度のサービスしか受けられない。そのため、例えば、本来の業務ではないが、引っ越しの支援なども実施していかないと生活ができない方もいる。

・障がい者ニーズを拾い上げられたため、どういう形で原村としてやっていくか、明確化が必要である。計画倒れにならないように、検討していく必要がある。

**○名取委員**

・アンケート調査を実施していただいて良かった。ただし、回答率が４割であり、まだまだ見えない部分があるのではないか。本当に必要な方の意見が反映されていないことも考えられる。

・障がいを持っている方でも、福祉や医療に繋がっていない方もある。また、家族の負担も大きい。

・子どもが少なく、核家族化も進んでいく中で、障がい者の世話を家族がする考えでは、成立しなくなっていく。家族の負担を解消していく取組をどんどん実践していただきたい。

**○阿部会長**

・アンケート調査の回答が155人ということであるが、介助されている方の支援を受けながら回答できるような事前の調整はあったかどうか、教えていただきたい。

・支援いただいても良いので、できるだけ多くの方に回答いただきたいとのことが周知できていたか、教えていただきたい。

**○事務局**

・回答への支援について、事前の周知は不足していたと実感している。また、調査内容についても、ボリュームがあり、答える方も大変であったと考える。

・次回の調査に向けて、改善していきたい。

**○上條委員**

・ボリュームが多く、回答された方も集計された方も大変であったと考える。

・問われていることの理解に対するハードルがある可能性もある。答えるための手立てがあると、提出率が上がるのではないか。

・回答者155人の年齢の内訳と比較するため、アンケート調査を配布した年齢層も把握したい。回答者は高齢者が多いが、若い世代の方の意見も把握すべきである。今後、公共交通機関を利用して通学する、働きに行くなどが想定できるため、若い方の意見も吸い上げられると良い。

**（2）現行計画の状況と次期計画策定のための課題抽出**

（地域総合計画より資料説明）

**○阿部会長**

・学習塾において３者面談を実施すると、３歳までの間に、母親が子どもに目を向けて十分に対応したかどうかで、子どもの状況が変わってくると実感している。近年は、共働き家庭が多く、幼少期に十分に子どもと一緒に過ごせていない場合が多い。三つ子の魂百までと昔から言われるが、３歳までに人間の感情や向上心が母親等から会話等で得る必要がある。

・どう解決していくかということであるが、原村でも既に手厚い補助があるが、子育てにあたっては、母親の教育も必要ではないか。この必要性を周知するシステムが必要であると感じている。

**○小倉委員**

・コロナの影響でボランティア活動を実践しにくかったが、ようやく戻ってきている。

・手話講座を受けて小学校で手話での交流を行っているが、障がい者のある方と接することが差別を無くすことにつながるため、小さい時から接することが重要であると考える。

・理解を深めるためには、小学生が障がい者施設へ行く機会を設けるなどの事業に取り組んではどうか。

**○義経委員**

・療育や精神の手帳所有者が増加傾向にあるが、発達障がいの児童も増えている。

・昔から、子どもは親の背中を見て育つと言われている。母親が育児放棄しているわけではないが、きちんと悪いこと良いことを教えられていない家庭があり、教育は大変重要である。

・通所や就労に関し、発達障がい者の支援者の支援をしている状況が多くあり、現場でも大変であるが対応している。家族等に対する支援対策があればよい。

**○工藤委員**

・原村に特化した発言は難しいが、諏訪広域において、子どもから90歳代まで約100名のお客様にサービスを提供している。

・昨今、入居サービスを受けられる方の多くが精神の方である。また、高等部の卒業後の暮らしの場、お助けの役割として成り立っている。

・サービス提供事業者として、障がいが多角的であり広範囲であるため、職員研修のジャンルも絞りにくい。そのため、職員の定着率が危ういことにもつながる。この分野に従事するからには、オールマイティでありたいが、実際には難しい状況にある。

・相談については、村の職員も頑張って対応している。また、民間の窓口であるが、事業所にも月５件ほど、行政を飛び越えて相談がやってくる。サービスの内容説明や手順などの話をし、正規のサービスにつながる支援を行っている。

・相談個所が、村の福祉課一本では難しいため、民間事業者も相談を受け付けており、周知も協力している現状がある。行政と情報を共有して、取り組んでいる。

・国の予算も大きく配分されており、障がい分野は大変手厚く保護されている。予算を有効利用するためにも、福祉計画として活かしていく必要がある。

・「障がい」の表記について、これまで議題にあがっていたが、ようやく原村も決心してくれたのではないか。

・ただし、法律用語について変更しても良いかどうか、問題ないか懸念される。現場の職員には、使い分けさせるように徹底しており、法律に関わる表記については、そのままで使用している。

**○事務局**

・現行計画では、法律部分も「障がい」という形で掲載している。

・ただし、ご指摘いただいた通り、法令は変えない方が良いため、新計画では改善したい。また、誤解が生じないよう、書き方のルールについては明確に示したい。

**○小池委員**

・嫌な思いをされたことがある方が多いとのことで、啓発が重要であると考える。

・中学校では、日常的に差別に対する学習を行っており、春と秋に１か月間集中的に実践している。

・社会福祉協議会が大変よく協力して下さり、例えば、聴覚障害のある方に来ていただき、具体的な体験を実践している。今後も社会福祉協議会等との連携により、学校での取組を充実させたい。

・知的障害児、発達障害児は増加している。国もインクルーシブの方向のため、支援員を導入しているが、更なる人の増員があるとサービス充実につながる。

**○名取委員**

・原村の体制として、保健福祉課以外の他課も加わっているため、課題も明確化してきており、改善しやすい状況につながっている。

・ただし、実際の窓口は担当者一人しかおらず、役場の体制強化が重要である。

・働きたい方が働けない状況について、役場が障がい者雇用を行い、地域に姿勢を見せることで、全てが変わってくるのではないか。

**○上條委員**

・養護学校においては、今後も生徒・児童数が増加傾向にあり、来年の小学生は17名にもなる予定である。また、高校生なども増加傾向が始まっている。

・そのため、彼らを支えていただく地域の方、現場実習の方、卒業後の受け入れ先が不足する不安がある。何かしら、そのような環境整備が重要である。

・通学バスについて、茅野市との連携により取り組むと聞いているが、到着時刻がずれる、異なる場所からの乗降などは、学生のパニックにつながる。定刻の路線バスなどの手段があると安心して通学ができる。

・茅野市在住で学童を利用する場合は、茅野市から養護学校まで迎えに来てもらい、バスで帰宅している。そのバスを上手に利用すれば、原村の児童も上手に通学・帰宅できないかと考えており、新しい形が作れると良い。

**（3）今後のスケジュールについて**

（地域総合計画より説明）

**５　閉会（小倉副会長）**

・皆さま、活発なご意見ありがとうございました。

・お時間の都合上、言い足りない意見があると思いますので、是非、ご意見をお寄せください。

・障がい者の代弁者となれるよう、そのような計画を策定したいと思います。

以上